

〈紹介〉

経済資料協議会ホームページ開設について

荒 木 康 裕

中央大学図書館

船 山 康

中央大学経済研究所

はじめに

近年のインターネットを利用した情報流通の発達には目を見張るものがあります。特に、一般に WWW (World Wide Web) と呼ばれるシステムの普及とともに、それまで一部の専門家やマニアのものであったパソコンによる情報の発信、取得が格段に容易になりました*¹。

ホームページは、インターネットの WWW サービスを利用して Web サーバにアクセスした時に表示される画面で、Web ブラウザと呼ばれる検索用のアプリケーションソフトにより表示されます。一般にはインターネット上で情報のあるところを意味しています*²。

もともと学術ネットから発達したインターネットには数多くの大学、その他の研究機関が接続しており、各分野の有用な情報を求めることもできます*³。

*1 インターネットに関する文献は枚挙にいとまがないが、インターネットシステムの解説書として以下の文献をあげておく。

大学図書館問題研究会『インターネット事始め：入門から上級まで：大学図書館問題研究会第3回オープンカレッジ報告集』大学図書館問題研究会出版部 1994年；情報管理編集部『完全インターネットガイド』情報管理 1996年；Ed Krol, "The whole Internet: user's guide & catalog" O'Reilly & Associates, 1994。

*2 ホームページに関する文献も多数出版されているが、ホームページ作成に必要な言語の解説を通してインターネットにおけるホームページを概説したものとしては、以下の文献がわかり易い。

私立大学キャンパスシステム研究会編『超 HTML 入門：HTML, CGI, Java, VRML』オーム社 1997年。

*3 現在開設されているホームページの数は世界中で7千万を超えるともいわれており、求める情報が存在するホームページを探すことは、思っている以上に困難である。「goo」「Alta Vista」「Yahoo」といった名前のサーチエンジンと呼ばれる検索ソフトも Web 上で利用可能だが、精度の点でまだまだ問題が多い。また、「Yellow Page」といったホームページのディレクトリーや分野別のホームページ案内書、あるいはパソコン関係雑誌のホームページ情報などの利用が有用である。

日本でも多くの大学がホームページを開設して、学外に情報を発信しています。

このような状況において、学術情報センター（以下学情センター）は日本の学会からの情報発信を支援することを目的として、全国の学会のホームページ開設のために Web サーバを提供し、「Academic Society Home Village」と名付けられたホームページを開いて、各学会のホームページをリンクしています。97年11月現在130の学会が学情センターの Web サーバ上にホームページを開設しています。

経済資料協議会（以下協議会）も1996年11月28日付で学情センターと「WWW 資源提供サービスに係る覚書」を取り交わして、学情センターの Web サーバにホームページを開設することが可能となりました。そこで、協議会では委員会を組織してホームページ作成を行うことになり、野澤会長、櫻田事務局長のほか、石井氏（大阪府立大学）、松山（中央大学）、および荒木（中央大学）の3人が作業を依頼されました。97年2月28日、京都大学において委員会を開催し具体的な検討を行いました。

以下に、1. ホームページ作成の基本方針の決定（荒木）、2. ホームページ作成作業（松山）として、公開に至るまでの過程、および、3. 今後の課題（荒木）について報告します。

1. ホームページ作成の基本方針の決定^{*4}

ホームページ作成にあたって最も重要なことは、当然のことながら、その目的が何なのかを明確にすることです。今回の作業にあたって初めにその検討を行いました。このホームページは協議会会員の相互交流と、経済学部学生をはじめとして、経済学に興味を持つ人々に協議会の存在を知ってもらうとともに、『経済学文献季報』等の出版物の紹介とそれらに関する役立つ情報を発信することにあります。そこで、ホームページの閲覧対象者を一般（経済学に興味を持つ人）と協議会会員とに分け、それぞれに明確な内容を持った構成とすることにしました。以下にそのコンセプトの概要を記します。

^{*4} ホームページ作成については、技術的な解説書は多く出版されているが、作成のコンセプトの重要性を意識した文献は少ない。その意味で以下の文献はわかりやすくコンセプトの重要性に触れている。

永江一石『インターネットホームページマスターへの道：成功の秘訣はコンセプトだ』廣済堂出版 1996年。

1) 協議会会員のページ*⁵

- ① 経済学文献季報関係 採録マニュアル・FAQ
- ② 会員連絡用 協議会ニュース・会員通信

2) 一般利用者用ページ*⁶

- ① 経済資料協議会の歴史
- ② 経済学文献季報採録誌および発行機関（リンク付あり）
- ③ 著名経済資料解説
- ④ 地域経済情報
- ⑤ 協議会刊行物案内

3) 共通ページ

- ① 経済学文献データベース案内（リンク付）

上記のような基本構成でホームページを作成することを決定した後、具体的な作成スケジュールおよび以下のような各人の作成分担を決定しました。

石井氏：協議会刊行物案内および著名経済資料の解説

櫻田氏：地域情報

松山氏：経済学文献季報採録誌・発行機関一覧およびホームページの立ち上げ

荒木：基本方針に沿ったホームページメニューの設計

以上の後、不完全ながら6月の総会においてホームページのテスト公開を行いました。

2. ホームページ作成作業

荒木氏が書かれたように、1997年2月末に最初の打ち合わせがあり、そこで作成分担が決められました。私（松山）の担当は採録誌・発行機関一覧およびホームページの立ち上げということでしたが、実際には荒木氏のデザインによる表紙の作成も行いました。

表紙については既にご存知かと思いますが、タイトルとコンテンツの他

*⁵ このページは協議会会員の相互交流を目的として、文献季報採録に係わる事柄や会員からの情報発信を第一の目的とした。

*⁶ ここで言う一般利用者は、基本方針の決定でも述べたように、基本的には経済学部
の学生等、経済学に関係する人を対象とした。そもそも学情センターの学会ホームページ
にアクセスする人はネットサーフィンを目的とする人とは異なるだろうと考えたからであ
る。その意味では経済学と無関係な人にとって興味のあるページは少ないかもしれない。
しかしながら経済学と無関係な人にとっても利用価値のあるリンク集を用意することは、
協議会のホームページアクセスの裾野を広げるには必要なことでもある。

に、経済学を代表する二大古典ともいうべき、マルクスの『資本論』とケインズの『一般理論』の画像が入っております。これは最初の案では初版本の画像を入れる予定でしたが、間に合わず、現在のところ私の作った変な画像を入れています。用意が出来次第入れ替えるつもりでおります。

メインの作業である採録誌・発行機関一覧の作成は、これも荒木氏の発案により、発行機関のリンクも載せることにしました。しかしながら、やってみるとこれはいささか大変な作業で、採録誌・発行機関とも量的に膨大であるということに加え、一つ一つリンク先を調べるのが大変面倒な作業でした。

また一覧表の順番をどうするか悩ましい問題でした。誌名順にするか発行機関順にするか、全体で一つのファイルにするか分割するか。結局、基本的には季報と同じく和雑誌・和のディスカッションペーパー・洋雑誌・外国語のディスカッションペーパーの四つのファイルに分け、それぞれを発行機関による五十音順としました。ただし和雑誌についてはファイルが大きくなりすぎたために、後で二つに分割しました。これらはもし使いにくいというご指摘があれば、順番等を改めてもいいと考えております。

さて、実際の作業手順についてお話ししましょう。まず誌名等の入力はありませんにも膨大なため、手で打つのは最初から考えず、季報の該当ページをスキャンしました。次いで、そうして出来たテキストファイルの文字化けを修正し（これがすごく多くて大変だった）、改行等の編集記号を加えいったんデータベースソフトに読み込み、形を整えた上でソートし、改めてテキストファイルとして出力しました。ここまですれば準備段階で、ここからは完全に手作業で、出力したファイルのデータにひとつずつリンクを張り、さまざまなタグを加えるなどしてHTML ファイルとして仕上げていったわけです。なんやかやで2ヶ月はかかったでしょうか。なにしろファイルが大きいので、エディタがスムーズに動かず苦労しました。なおリンク先を調べるのに、主に園田学園（関西の女子大）の他、大学リンク集を参考にしました*7。

こうしてなんとかデモまで漕ぎ着けたわけですが、リンク集としてはまだまだ不完全で、例えばどのリンクもトップページにしか行けませんし、ホームページを持っているのにリンク先が載っていない機関もたくさんあります。どん

*7 役に立ったソフト：

EmEditor V. 1.22 (エディタ, 軽くて高性能, フリーソフト)

FTP Explorer V. 1.00 (ftp ソフト, カスタマイズが容易で使いやすい, フリーソフト)

参考文献：アंक著『最新 HTML タグ辞典』翔泳社 1997。

だんご指摘頂き、さらに改良していきたいと思っております。

石井さんからのデータは電子メールで送って頂きました。そのままファイル名だけ付ければ使用出来るようになっており、私としてはまったく手がかからなくとても感謝しております。なお表組の技術について個人的にかなり参考にさせて頂きました。

最初の打ち合わせでは、6月の総会時に正式オープンということでしたが、結局総会時に辛うじて間に合ったのは、表紙と採録誌・発行機関一覧および『経済資料研究』のコンテンツのみでした。大阪市大で行ったデモは、フロッピーディスクに入れたファイルをブラウザで表示するという形で行いました。その後8月に京都大学で行った西部会の勉強会におけるデモも同じ形でした。

現在なお未完成の部分が多いものの、学術情報センターのサーバーに載せて一応全世界からアクセス出来る体勢になっています。ホームページ作成はまだまだ初期段階です。慣れないこととて困難は多々ありますが、やってみると面白いことも結構あります。素晴らしいホームページが出来よう会員の皆様ともども盛り立てて行きたいと思っています*⁸。

3. 今後の課題

ホームページは単なる案内パンフではありません。情報の発信だけでなくホームページを見た人からの情報の受信もできる双方向性に特徴があります。したがって、常にホームページの情報を新鮮に保つ必要があります。つまり、メンテナンスの体制をしっかりとさせる必要があります。半年前と全く同じ情報を載せているだけでは、ホームページを開設する意味がないと言えるでしょう。それ故、継続的な組織を事務局内に設けて、魅力あるページを作っていくことが求められると思います。

さらに、協議会のホームページの英語版をなるべく早く作成することも重要でしょう。ホームページは時と場所を問わず情報を発信することができます。協議会の活動を世界に発信するためには、英語版の作成はやはり必要なことだと思われます。

経済研究の進歩発展に寄与することが協議会の主要な目的の一つ*⁹である

*⁸ 経済資料協議会ホームページ URL

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/ade/HOME.htm>

*⁹ 経済資料協議会会則 第3条 本会は、会員相互の協力により経済に関する学術情報の理論、技術等の諸問題について研究、調査を行い、経済研究の進歩発展に寄与することを目的とし、あわせて会員相互の親睦を図るものとする。

以上、日本における経済研究の情報を広く世界の経済研究者や日本研究者に提供することが協議会に求められていると行うことができると思います。

そして、これまでは不可能だった世界に対する情報発信を容易に可能にしたインターネットを最大限に利用することが協議会の将来的な存在価値を高めることにもなるのではないのでしょうか。